

新基地建設反対名護共同センター ニュース

オール沖縄会議「高良沙哉」氏の勝利を喜び合う



「辺野古新基地を造らせないオール沖縄会議」は八月一日(土)、沖縄県名護市辺野古の米軍キャンプ・シュワブゲート前で県民大行動を開催した。昨年六月に名護市の安和桟橋前で起きた死傷事故で、抗議活動中に重傷を負った女性に対して、県警本部が被疑者として事情徴収を求めていることが分かった。

三宅弁護士によると、七月二八日、県警本部から女性「事情を聞きたい」と連絡があった。女性側が弁護士の同席を条件にしたところ、「重過失致死罪の被疑者として調べるので弁護士の立ち合いには応じられない」と返答してきたという。女性は弁護士のサポートを受けながら六日にも事情聴取に応じる予定とのこと…。

前日の八月一日の参議院初登院から沖縄に戻つて、ゲート前へと駆けつけた高良さちか新参議院議員に、多くの参加者から熱烈な歓迎が相次ぎました。

県関係野党国会議員団と並んであいさつした高良氏は

「みんなで勝ち取つた平和の一議席。重みを背負つて沖縄の声をしつかり届けていく!」と表明。差別や分断の逆流

に抗い、民主主義や憲法を実現する政治を取り戻すと

述べ、「そのために根性を入れて頑張つて行かなければ

…」と力を込めると、大きな拍手が沸き起きました。

玉城デニー知事はメッセージを寄せ、大浦湾側の軟弱

地盤改良工事にふれ、「法律にのつとり厳正に審査し問

題があれば工事を中止させるという点はこれからも果

敢に訴えたい」と決意を示しました。

被害者を加害者にする国家権力の横暴

辺野古新基地核疑惑・核貯蔵庫一部完成で“核持込み”に拍車

日米同盟の“核の傘”を本物に。2025年6月2日、日米の元政府高官や自衛隊統合幕僚長経験者らが「台湾有事」を視野に、自衛隊が米軍と核兵器を共同運用する「核共有」の推進を求める提言をまとめ、記者会見で打ち上げた。

提言の音頭とりは、戦後の米軍占領下に「CIA協力者」といわれた人物が創設した筈川平和財団だ。提言を報じた6月3日の記事は提言者にはふれてない。

筆者はその日のうちにフェイスブックにこう投稿した。「指南役はブラッド・ロバーツ元米国防次官補代理だ」。後日、入手した提言のリストに同氏の名を確認した。

実はこの人物こそが冷戦崩壊後に、米本土への核攻撃を視野に核開発を急速に推進した中・露に対抗。遅れをとった米国とNATO、日米同盟での「核の傘」再建、米核戦力のアジアへの前方配備を柱とした「核抑止」「日米拡大抑止」を“指南”してきたのだ。

「米核戦力のアジアへの前方配備」は、今回の提言の「日米核共有」つまり日本への核持ち込みの台本だ。2009年の米連邦議会での秘密聴聞会で米側の「われわれは沖縄への緊急時のための核貯蔵庫を考えているがどう考える」との質問に当時の、秋葉剛男駐米公使(後に国家安全保障局長)から「大変、説得力のある提案だ」との回答を引き出した“立役

者”である。辺野古新基地核疑惑の辺野古弾薬庫建替えは、こうした背景の中で具体化された。日米は辺野古核貯蔵庫の一部完成を引き金に非核三原則の無力化を目論んだ。であれば戦争被爆国の市民は、辺野古新核貯蔵庫の“無力化”しかない。(了)

『知られざる辺野古新基地核疑惑』辺野古弾薬庫「再編」の狙い今、明らかに』著 山本真直(ジャーナリスト)
(初版+パートIIのセット価格は1,000円)ご注文は、あけぼの出版社(沖縄県那覇市)098-861-9145



宮城島の景観が破壊される辺野古新基地建設のための土砂搬出

うるま市宮城島からの土砂搬出は、二〇二四年十一月二〇日から始まった。南部の戦跡からの土砂搬出が問題になつた頃、宮城島からの土砂搬出は計画にあつたものの突然の出来事でした。

伊盛サチ子市議

十一月二〇日以降は、平安座島平宮にある沖縄石油基地の桟橋からの搬出に変更され、土砂搬出の台数は一日平均二〇〇台に増加している。その影響で、観光客や市民生活にも支障が生じ、交通渋滞や大きい事故が懸念される。

また、石油基地からの土砂搬出は「水域占用許可条件」にも違反している。県営一般道路は強度的にも大型車両が一日平均一五台、四〇台というのが構造上の設計となつていて、現状では、一日二〇〇台もの大型ダンプトラックが往来している。その結果、農道の亀裂など損傷がひどくなり、道路の舗装が間に合わない状況になつていて、

しかも、工事はその後も強行され、さうた五月二九日には、大量の雨が降り続くなか土砂搬出を行し、赤土交じりの濁水が道路に流れ込み周辺の海を汚染した。そこを監視している「うるま島ぐみ」や抗議行動参加者のメンバーで沖宮鉱山へ抗議、また県関係機関への赤土防止条例に基づく行政指導の要請を行つきました。

土砂搬出から七ヵ月経過している。搬出総台数は一四、三九七台です。「うるま島ぐみを中心



青い海は青いままで